

仙台市の幼児教育の**基本理念**について（たたき台）

（基本的な認識）

- ◇幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。
- ◇この時期に、生活や遊びといった直接的、具体的な体験を通して、情緒的・知的な発達が図られ、また、他者との関わりを通して規範意識や社会性などが養われ、社会の一員としてたくましく生きる基礎を獲得していく。
- ◇木々が葉を茂らせ、花を咲かせ、豊かな実をつけるためには、丈夫な根っこが必要であるように、人間も大きく成長するためには、心身の確かな根っこが必要である。
- ◇幼児教育は、心身の根っこを育てる教育であり、目先の結果にとらわれることなく、じっくりと取り組むことが肝要である。
- ◇子どもに関わる全ての者が、幼児教育の重要性とそのあるべき姿を正しく理解し、連携・協力して取り組む必要がある。
- ◇全ての子どもに支援が必要であり、子どもの幸せを第一に考え、「その子らしさ」を大切にして個々の特性を踏まえた適切な支援を行う必要がある。
- ◇家庭が、教育の第一の場であり、親自身が限られた幼児期の子育てを楽しみ、愛情を持って子どもの心身を育むことこそが、最も基本で最も重要な幼児教育である。
- ◇子どもたちの生活習慣の乱れや体力、運動機能の低下が懸念されていることから、丈夫な体づくりにも取り組む必要がある。

【基本理念（たたき台）】

生活や遊びを通して、子どもたちの心と体の根っこを育て、社会の一員としてたくましく生きる基礎を築く。

- ◇基本理念をもとに、指針にサブタイトルをつけたいと考えています。

仙台市幼児教育の指針
～子どもたちの心と体の根っこを育てよう～